

新潟県中越地震の斜面複合災害のモニタリングに関する研究  
—メカニズム、維持管理、景観、生態系、廃棄物等の総合的斜面工学からの検討—

第1回打合せ

日時：平成18年3月3日

場所：土木学会 会議室

議題

1. はじめに
2. 目次案の検討
3. 報告書の書式，ページ数，表紙，印刷等の検討
4. 成果の公表方法と今後のスケジュール
5. その他
6. 次回

(資料) メーリングリストより抜粋

■報告書の書式等

- ・土木学会の重点研究の報告書  
<http://www.jsce.or.jp/library/page/juhten/index.html>
- ・土木学会論文集の書式に統一する.
- ・文章の最後に括弧書きで著者名を記載 → 検討

■報告書の印刷

ウェブでの報告書公開以外に，報告書のカラー印刷

- ・A4版約70ページ(両面，そのうちカラー約20ページ，くるみ製本)，500部印刷.
- ・予算が限られているので，もしページ数が増えたら部数やカラーページ等を減らす.
- ・500部印刷した報告書は，関係機関に配布
- ・5月11日開催予定の斜面一般書の講習会や，土木学会全国大会(9月20日～22日，立命館大学)，その他催し物でも配布

■各章の責任編集

1. はじめに(後藤)
2. 新潟県中越地震の概要(稲垣副委員長)
3. 斜面崩壊(後藤)
4. 景観と斜面災害(中野委員)
5. 生態系と斜面災害(佐々木(寧)委員)
6. 斜面と災害廃棄物(大野幹事)
7. 斜面災害の復興計画と対策案(中濃委員)
8. 斜面災害の長期モニタリング計画(大野幹事)

新潟県中越地震の斜面複合災害のモニタリングに関する研究

—メカニズム、維持管理、景観、生態系、廃棄物等の総合的斜面工学からの検討—

- ・(第12回斜面工学研究小委員会で承認
- ⇒5月14日の現地調査メンバーで再検討
- ・第2回, 3回斜面工学研究小委員会で検討

目次案

1. はじめに (後藤)
2. 新潟県中越地震の概要 (稲垣)
  - 2.1 地震の概要 (中村)
  - 2.2 地形・地質 (稲垣, 佐々木靖人, 田村, 中村(洋))
  - 2.3 断層 (中村(洋))
  - 2.4 植生 (佐々木(寧))
  - 2.5 景観 (中野)
  - 2.6 土壌雨量指数と斜面崩壊 (岡田)
  - 2.7 積雪環境 (櫻井)
  - 2.8 被災状況 (稲垣)
3. 斜面崩壊 (後藤)
  - 3.1 自然地盤の斜面崩壊 (後藤, 上野, 櫻井, 佐々木靖, 中村(洋), 鈴木, 小川, 向谷, 宮崎, Sidle, 伊藤)
    - 3.1.1 分類と特徴 (素因と誘因)
    - 3.1.2 崩壊事例
    - 3.1.3 地形と斜面崩壊 (中村(洋))
    - 3.1.4 雪解け時の斜面崩壊
  - 3.2 棚田、溜池等の被災と復旧 (中野, 青木)
  - 3.3 斜面防護工の被災と復旧 (岩佐, 平田, 太田, 西川, 柏熊)
  - 3.4 雪崩防止施設の被災と復旧 (櫻井, 岩佐)
  - 3.6 住宅地における斜面災害 (釜井, 稲垣, 太田, 西川, 柏熊)
  - 3.7 鉄道における斜面災害 (島村, 外狩, 友利)
  - 3.8 高速道路における斜面災害 (天野)
  - 3.9 河道閉塞の発生と対策 (後藤, 中濃)
4. 景観と斜面災害 (中野, 外狩)
  - 4.1 棚田 (中野, 青木)
  - 4.2 斜面景観 (中野, 外狩)

5. 生態系と斜面災害 (佐々木(摩), 桜井, 上杉, 中野)

5.1 植生と斜面崩壊

5.2 斜面植生の崩壊と保全効果

5.3 防災緑化

6. 斜面と災害廃棄物 (大野, 官原)

6.1 斜面災害などから生じるごみの現状

6.2 斜面と災害廃棄物

7. 斜面災害の復興計画と対策案 (中濃)

7.1 砂防 (中濃)

7.2 治山 (桜井)

7.3 交通機関 (築瀬, 島村)

7.4 棚田 (中野, 青木)

7.8. 斜面災害の長期モニタリング計画 (大野, 後藤)

8.9. 提言 (後藤, 稲垣, 中野, 佐々木, 大野)

簡潔な文章で成果を提言にまとめる (根拠も示す)

9.10. まとめ

佐々木

中野

状況・対策案 計画

↑小川

道路 (天部)

鉄道 (外務)

棚田

7.5 完成

↑小川

7.6 準備完了

↑復興野

## 備考

### 1. 目次案と報告書書式等

- ・ () 内の最初の方は取りまとめの方です (敬称略)。
- ・ 取りまとめの方は、執筆者グループを組織する (指名権あり)。執筆者は委員会に公募するので人数の制限は設けない。自分の得意な分野のところを書いてもらう。
- ・ 報告書の書式は土木学会論文集の書式に統一 (土木学会論文集への投稿を予定しているため) <http://www.jsce.or.jp/committee/jjsce/index.htm>
- ・ ページ数 自由

日・ 昨年の日の調査と今回調査の報告、考察、これまでの他学会等の研究紹介を行う。特に長期モニタリングという観点でもまとめる。執筆者が既に他学会等で成果を公表された場合、参考文献に他学会の文献を引用して、重点研究に関するものを本報告書に記載して下さい。

### 2. 報告書の締め切り

- ・ 平成 17 年度末 (平成 18 年 3 月 31 日) に、学会に報告書を提出する。

### 3. その他

- ・ 各メンバーが対外的に成果を発表するときは、速報・中間報告・最終報告のHP (または報告書) 等を引用し、謝辞に例えば「・・・に関する研究 (調査) は土木学会斜面工学研究小委員会の平成 17 年度重点研究により実施した」のような文章を入れて宣伝してください。 (今後 3 期, 4 期・・・と継続する可能性があるため)
- ・ 資料の収集機関のリスト作成と引用許可  
報告書に用いる図表や写真の引用許可が必要な場合は、後藤まで連絡して下さい。

以上

C10 C11 C10 C08 C08 C07 C06 C05 C04 C03 C02 C01

